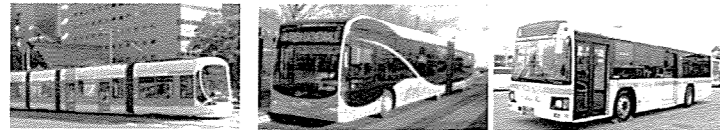


今後の進め方

1. 皆様から頂いたご意見を踏まえ、技術・計画検討委員会において、対策の必要性及び評価の視点等について検討を行います。
2. また、これら検討結果については、県民と情報共有を図ってまいります。
3. 鉄軌道の対策案や評価方法、鉄軌道と結節するLRTやバスなどのフィーダー交通ネットワークについてはステップ3で検討を行います。



LRT

基幹バス(BRT)

※フィーダー交通とは？

幹線と接続して支線の役割をもって運行されるLRTや基幹バス(BRT)、路線バス等のことです。

※1) LRT (ライトレール) は、Light Rail Transit の略で、低床で乗り降りがしやすく、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴をもつ次世代の軌道系交通システムです。
 ※2) BRT (ビーアールティー) は、Bus Rapid Transit の略で、低床化されている通車バス等と、バス専用道、バスロケーションシステム (バス位置管理システム) 等を組み合わせて定時性、速達性を確保するバスシステムです。

今後の予定

(予定は変わることがあります)

- ①5月10日(日)から1ヶ月間、皆さまのご意見を募集します。
- ②また、パネル展示(41箇所)やオープンハウス(説明員を配置したパネル展示(7箇所))を実施します。
- ③一般公募により選出された県民間の意見交換の場として、県民会議を開催します。

パネル展示・オープンハウス実施スケジュール

※スケジュール・場所は予告なく変更する場合がございます。

施設種別	実施期間	実施場所
公共施設	2015年5月11日～15日 (主に北部・離島)	道の駅くみかみ、道の駅おおぞみ、東村役場、今帰仁村コミュニティセンター、本部町役場、名護市役所、宜野座村役場、恩納村役場、金武町役場、健康福祉センターうるま(うるま市)、名桜大学、宮古島市役所 11日オープンハウス 、石垣市役所 15日オープンハウス 、久米島町役場(13日～19日)
	2015年5月18日～22日 (主に中部)	読谷村役場、嘉手納町役場、沖縄市役所、北谷町役場、北中城村役場、吉の浦会館(中城村)、宜野湾市役所、沖縄国際大学、モノレール県庁駅前(18～24日)
	2015年5月25日～29日 (主に南部)	浦添市役所、西原町役場、与那原町役場、那覇市役所(25日～27日)、南風原町役場、南城市大里庁舎、八重瀬町具志頭本庁舎、糸満市役所、豊見城市役所、沖縄大学
商業施設	2015年5月10日～17日	道の駅許田交通情報センター内
	2015年5月15日～19日	イオン名護 16日午後、18日午後オープンハウス
	2015年5月20日～24日	イオン那覇、イオン具志川、サンエー西原シティ 20日午後、23日午後オープンハウス サンエー経塚シティ 20日午後、23日午後オープンハウス
	2015年6月1日～2日	メイクマン宮古店 1日午後オープンハウス 、メイクマン石垣店 2日午後オープンハウス

※琉球大学、沖縄工業高等専門学校については今後ホームページで公表予定。

ご意見・ご質問・お問い合わせはこちらへ！

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
 沖縄県企画部交通政策課
 電話：098-866-2045 FAX：098-866-2448
 メールアドレス info@oki-tetsukidou-pi.com
 (沖縄鉄軌道構想段階PI)
 ホームページ <http://www.oki-tetsukidou-pi.com>



沖縄 鉄軌道

【募集期間】

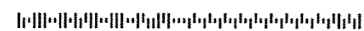
平成27年5月10日(日)～6月9日(火)

みなさまの声を今後の検討に反映させていただくため、以下のアンケートにお答えの上、郵送、FAX、電子メールにてお送りください。(ホームページ、スマートフォンでは直接入力ができます)

郵送の場合は、下記を切り取り、封筒に貼り付けてください。当方で送料を負担します。

料金受取人私郵便
 浦添局 承認 430
 差出有効期間 平成28年 3月31日まで

(受取人)
 沖縄県浦添市屋富祖1-3-16
 沖縄県 企画部 交通政策課
 「沖縄鉄軌道・計画づくりPI係」
 ((有)沖縄マーケットプランニング内) 行



郵送、FAXの場合は、下記を切り取りご利用ください。

【居住地】 _____ 県 _____ 市・町・村 _____

以下の内容について、○をつけて下さい。

【性別】 男 女 【年齢層】 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代～

【問1】 沖縄県が、鉄軌道導入の取組を行っていることについて
 1. 今回知った 2. 以前から知っていた

【問2】 陸上交通の現状や課題について(3ページ参照)
 1. 理解できた 2. ある程度理解できた 3. あまり理解できなかった 4. 理解できなかった

【問3】 陸上交通の現状を改善すべきだと思いますか？(3ページ参照)
 1. 思う 2. ある程度思う 3. あまり思わない 4. 思わない

【問4】 県の計画で示されている将来の姿について(4ページ参照)
 1. 理解できた 2. ある程度理解できた 3. あまり理解できなかった 4. 理解できなかった

【問5】 将来の姿の実現に向けた、5ページのような公共交通に関する対策についてどう思いますか？(5ページ参照)

【問6】 どのような評価の視点が必要だと思いますか？(6ページ参照)

【問7】 その他ご意見・ご要望など(自由にお書きください)

沖縄鉄軌道構想段階PI

おきなわ鉄軌道ニュース

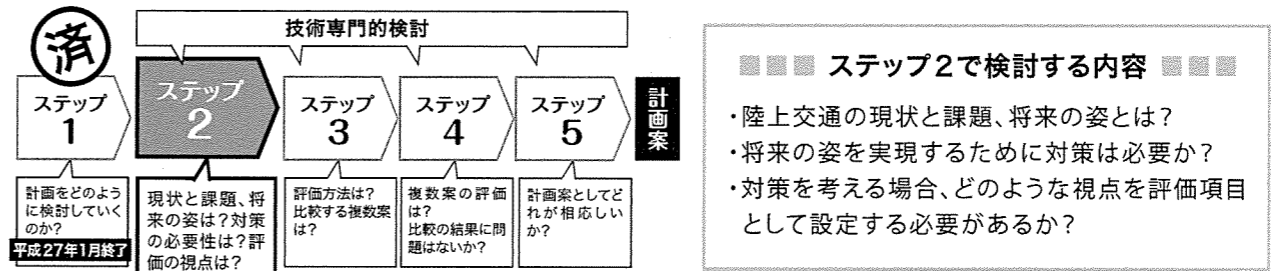
2015年
第3号
 沖縄県企画部

おきなわ鉄軌道ニュースは、鉄軌道を含む新たな公共交通システム(以後「鉄軌道」という)の計画案づくりの検討状況をお伝えするため、県民の皆さまに配布しています。今後も検討状況にあわせて、継続的に発行していく予定です。

〈那覇～名護間を1時間で結ぶ鉄軌道の導入に向けて〉

- ・沖縄県は、平成26年10月から鉄軌道の計画案づくりをスタート
- ・ステップ1として、平成27年1月に計画案づくりの「進め方」を決定
- ★1月から「進め方」に基づき、ステップ2の検討をスタート
- ★3月には、技術・計画検討委員会の専門家による審議を開始

ステップ2を実施中



8ページ(最後のページ)にあるアンケートに答えてね!



あなたのご意見お聞かせください!

うにげーさびら

専門家による審議が行われています



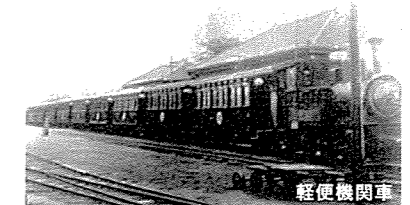
平成27年3月17日(火)に第1回技術検討委員会(兵藤哲朗委員長:東京海洋大学教授)、4月6日(月)に第1回計画検討委員会(森地茂委員長:東京大学名誉教授・東京工業大学名誉教授・政策研究大学院大学政策研究センター長)が開催され、沖縄の陸上交通の現状・課題などについての審議が行われました。

- 委員からは、
- ①鉄軌道導入の前提として、県民が自動車からバスなど公共交通への転換を本気で進める必要があることも共有すべき
 - ②那覇と名護が1時間圏域になれば北中南部が一つの都市圏となり大きなインパクトとなるなどの意見がありました。

沖縄にも鉄道があったことをご存知ですか?

沖縄県軽便鉄道

- 沖縄県軽便鉄道(県営鉄道)は、今から100年前(大正3年)に那覇～与那原間が開業、その後開業した那覇～嘉手納間(大正9年)、那覇～糸満間(大正12年)の3路線の総延長約48キロメートルで営業されていました。
 - 乗客数は開業当時(大正4年度)は約43万人でしたが、昭和16年度には300万人超の利用がありました。しかし、戦災のために壊滅しました。
- ※写真は、県鉄20周年記念で飾りたてられた軽便鉄道。普段はもっと少ない客車を引いていた。



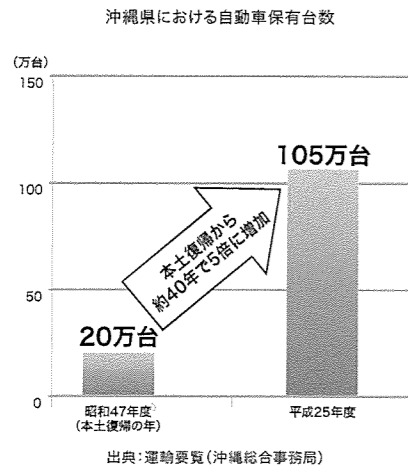
所蔵:うるま市石川歴史民俗資料館

1. 沖縄の陸上交通の現状・課題について一緒に考えてみませんか？

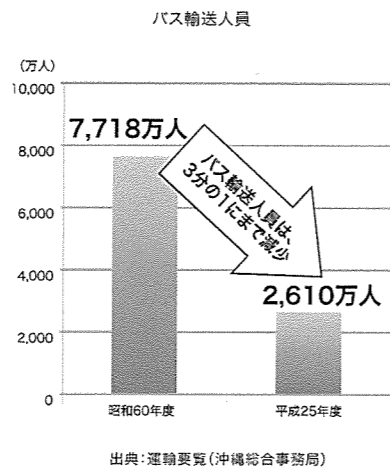
1 自動車依存型社会、慢性的な交通渋滞

沖縄県は自動車利用の拡大とバス利用の減少により、極めて高い自動車依存型社会が形成され、交通渋滞が日常化しており、その対策が求められています。

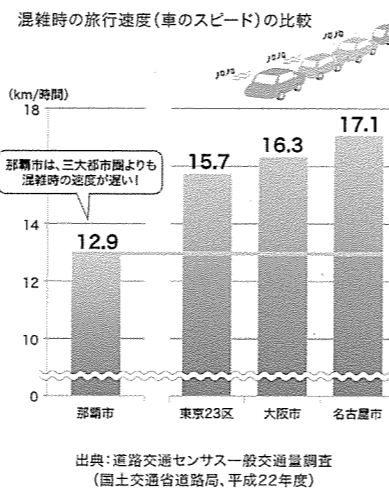
急激な自動車利用の拡大



大幅なバス利用者の減少



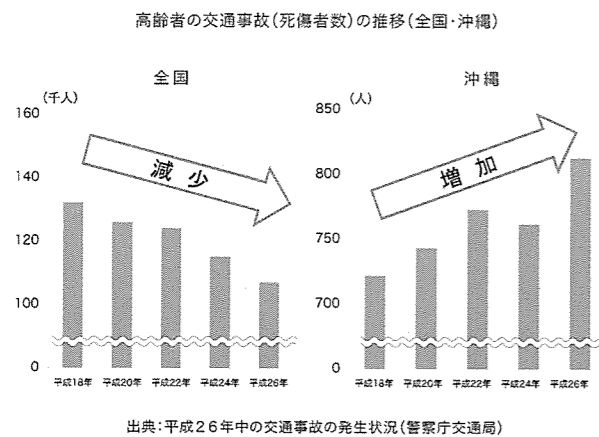
慢性的な交通渋滞



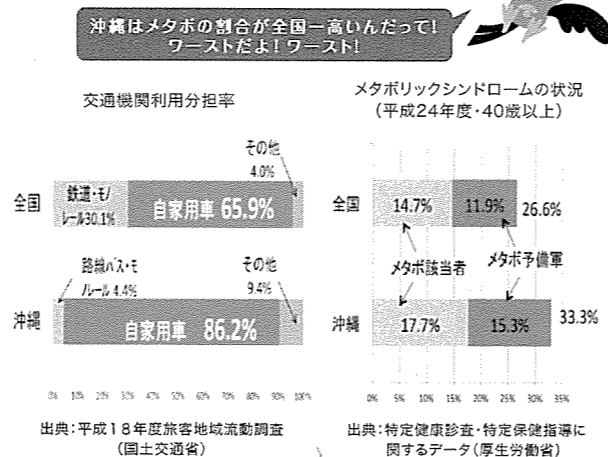
2 安全・安心、健康増進

高齢者の交通事故(死傷者数)は、全国が減少しているなか、沖縄県では増加してきており、誰もが歩いて暮らせる環境づくり、人に優しい交通手段の確保が求められています。また、沖縄はメタボリックシンドロームの割合も全国平均より高く、健康増進のための取組が必要となっています。

安全・安心



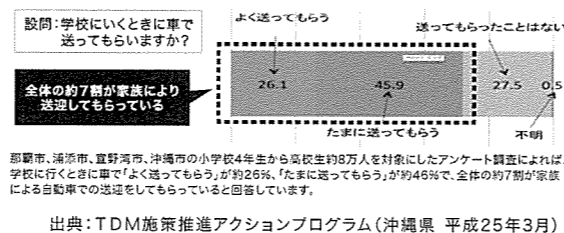
健康増進



★専門家からの一言★

- 現在は、バスとバス、モノレールとバスなどの公共交通の乗り換えが不便。
- 沖縄県民は通学時における車での送り迎えが多く、自動車に頼りすぎている。
- 高齢者を含め様々な人の移動手段が確保されることが重要。

小学生4年生から高校生の通学時における自動車による送迎の割合

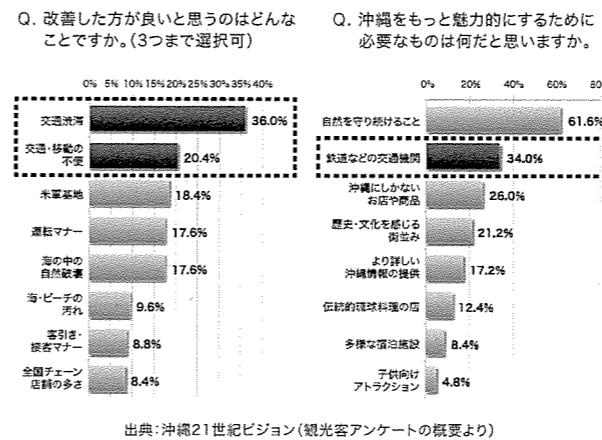


※「専門家からの一言」は沖縄鉄軌道計画検討委員会や技術検討委員会での委員意見から抜粋。

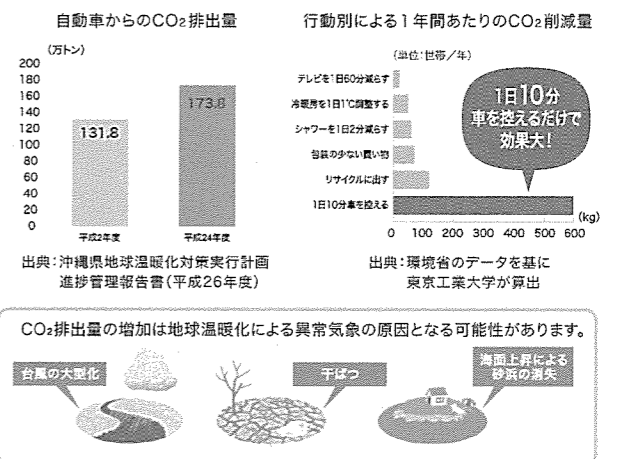
3 観光振興、CO₂削減

観光客は、「交通渋滞」、「交通・移動の不便さ」の改善を求めています。また、沖縄をもっと魅力的にするために「鉄道などの交通機関」が必要と思っています。二酸化炭素(CO₂)の増加は地球の温暖化に影響を与えます。自動車の利用を控え、公共交通を中心とした生活に変更するとCO₂排出量の削減が期待できます。

観光客が求める交通の改善



CO₂削減

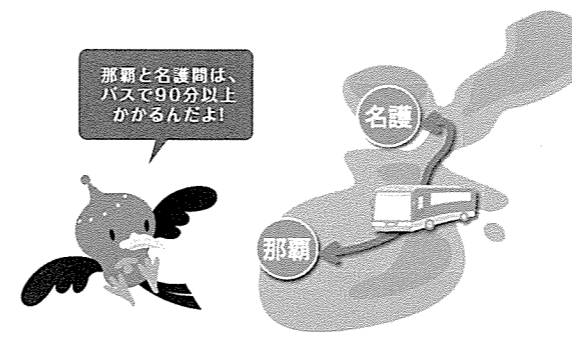


4 地域活性化、まちづくり

地域の活性化やまちづくりを考える上で、公共交通の果たす役割が重要となっています。

公共交通の利用環境の改善

那覇一名護	高速バス	路線バス(120番)
所要時間	約1時間30分	2時間40分~3時間
運行時間(出発時間)	朝5時台~夕方6時台	朝5時台~夕方8時頃まで
運行本数	1時間当たり1本~2本	1時間当たり2本 ピーク時は3本



このような陸上交通の現状・課題について理解できましたか?

※8ページのアンケート問2でお答えください。

返還跡地のまちづくりと連携した公共交通



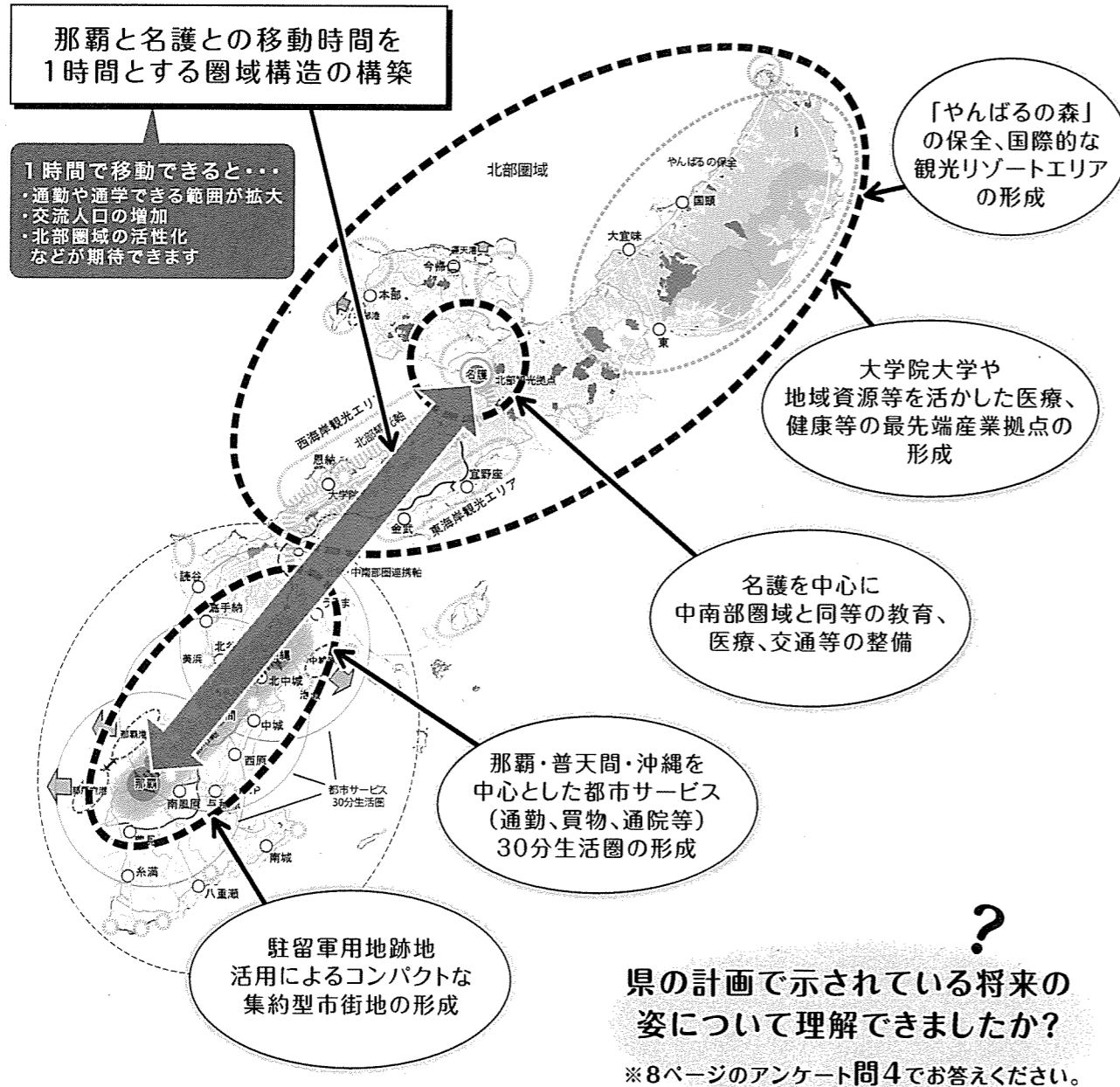
陸上交通の現状を改善すべきと思いますか?

※8ページのアンケート問3でお答えください。

2. 沖縄本島の将来の姿

「沖縄県総合交通体系基本計画」において、
以下のような沖縄本島の将来像が示されています。

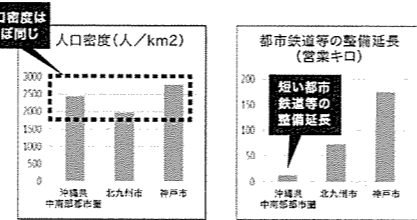
※「沖縄県総合交通体系基本計画」は、沖縄21世紀ビジョンの実現に向け、パブリック・コメントにより
いただいた県民意見等を踏まえ検討され、平成24年6月に策定されました。



注) 沖縄県総合交通体系基本計画から抜粋

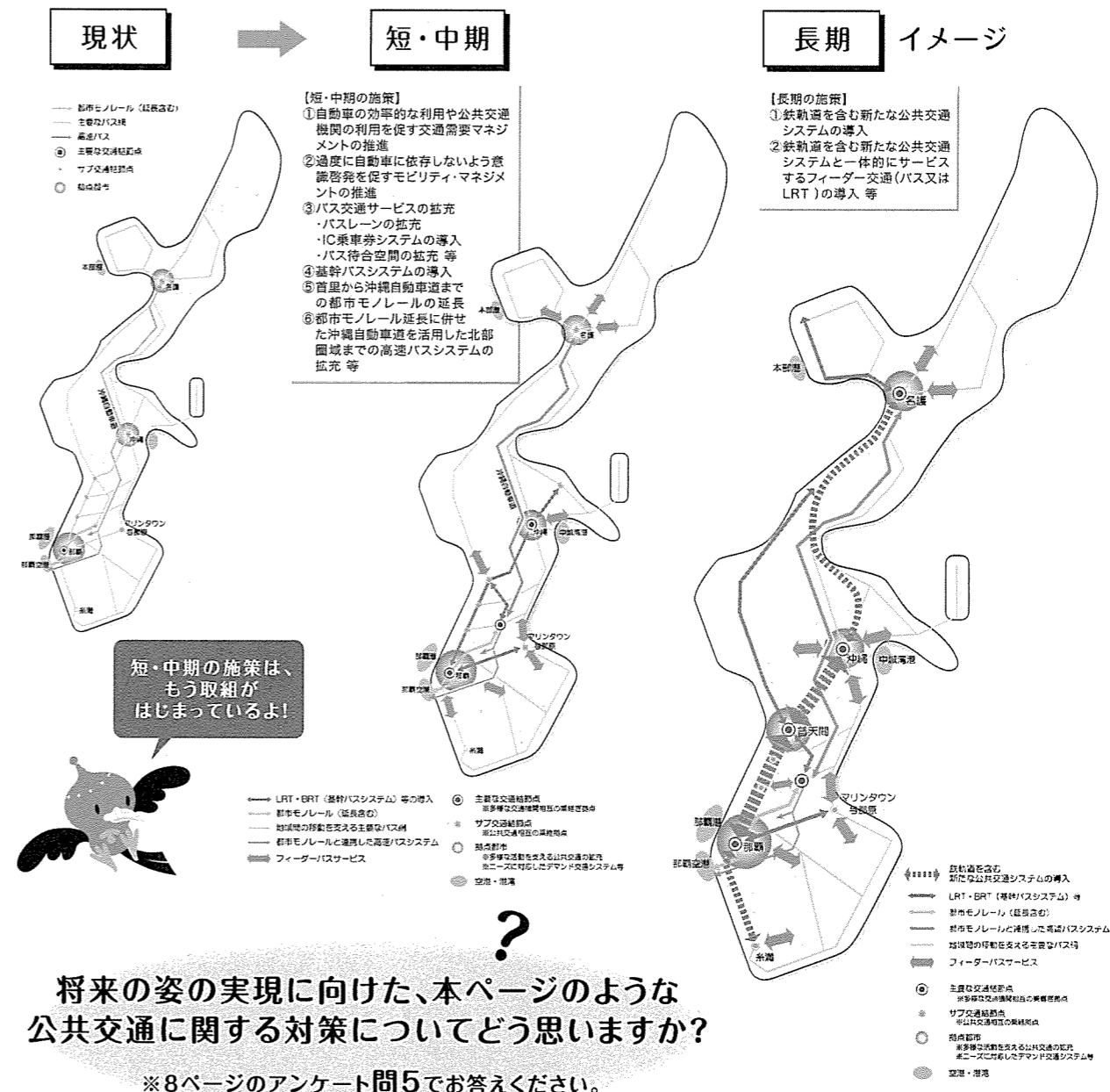
～都市鉄道等の整備が少ない過密な中南部都市圏～

- 中南部都市圏は、狭小な地域の中に、政令指定都市（北九州市など）に匹敵する人口約117万人の過密な都市圏を形成しています。
- 人口密度が同等の都市と比較すると、都市鉄道等は短い整備延長となっています。



3. 将来の姿の実現に向けた対策のイメージ

「沖縄県総合交通体系基本計画」では、
沖縄本島の将来像の実現に向け、公共交通については以下のような
短・中期、長期の施策(対策)が示されています。



注) 沖縄県総合交通体系基本計画から抜粋

★専門家からの一言★

- 鉄軌道を導入するためには、県民一人一人が公共交通を積極的に利用していくことが前提となる。
- 那覇と名護が1時間圏域になれば北中南部が一つの都市圏となり、大きなインパクトとなるのではないかと。
- 自家用車利用から公共交通利用への転換を促す魅力ある取組が必要。



※「専門家からの一言」は沖縄県鉄道計画検討委員会や技術検討委員会での委員意見から抜粋。

4. 将来の姿の実現に向け、 対策を考える場合の評価の視点

前ページ(5ページ)のような公共交通に関する対策を実施するには、
対策を評価する視点(効果と影響)を設定する必要があります。



なぜ評価の視点が必要なの？

- ① 将来の姿を実現するための対策は、1つではなく、複数あるよ。
- ② 複数ある対策案の中から一番適したものを選ぶため、どの案がどの点で優れているか、または劣っているか等を評価するための「評価の視点」が必要なんだよ。

- 1 住民生活、地域経済、地域社会等の社会全体への「事業による効果・影響」について、以下のような評価の視点が考えられます。

〈評価の視点の例(事業による効果・影響)〉

(1) 移動の利便性(渋滞緩和等)

- ① 通勤や通学できる範囲が広がるか
- ② 那覇市と沖縄市が30分で移動できるか
- ③ 公共交通を利用する人が増え渋滞が緩和されるか

(2) 県民生活(安全・安心、健康増進等)

- ① 高齢者も外国人も安全・安心に移動できるか
- ② 県民の歩く機会が増え、健康的な生活習慣になるか

(3) 地域活性化

- ① 北部にもっと人が住むようになるか
- ② 地域間の交流が活発化するか
- ③ 観光リゾート産業をはじめ様々な産業が活性化するか

(4) 観光振興

- ① 観光客がわかりやすく時間通りに移動できるか
- ② 観光客の移動できる範囲が広がり、多くの観光地を訪れることが可能になるか

(5) まちづくり

- ① 駅ができることによりまちづくりの起爆剤になるか
- ② 人と環境に優しいコンパクトなまちづくりができるか

(6) 地球環境

- ① 二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らせるか
- ② 地球温暖化を抑制できるか

そのほか、一般的に新たな公共交通システム導入の評価の視点としては、

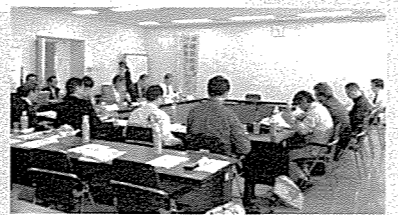
- 2 事業の効果を定量的に計算できる便益を事業費で割った値で表す「費用便益比」
- 3 交通事業者が持続的・安定的に交通サービスを提供することが可能かを評価する「経営採算性」
- 4 公共交通システム導入による騒音や振動等の「生活環境への影響」、「自然環境への影響」等が設定されます。

上記 1 の評価の視点の例も含め、
どのような評価の視点が必要だと思いますか？

※8ページのアンケート問6でお答えください。

★専門家からの一言★

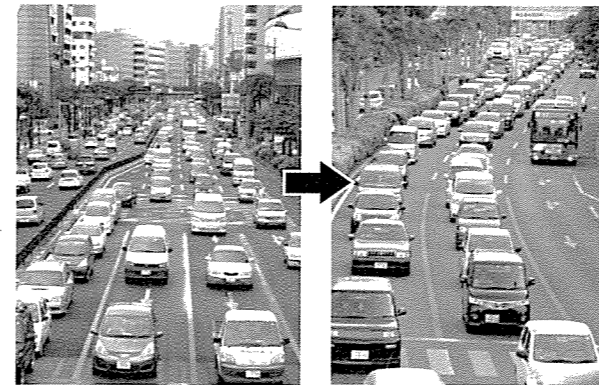
- 公共交通の利用促進など、計画を進める上で必要な条件を、評価の前提として整理する必要がある。
- 人口流動の可能性など、定量的に図れない効果についても考慮すべき。
- 鉄軌道等の導入後のまちづくりが進んだ後の生活環境への影響等についても考慮すべき。



※「専門家からの一言」は沖縄鉄軌道計画検討委員会や技術検討委員会での委員意見から抜粋。

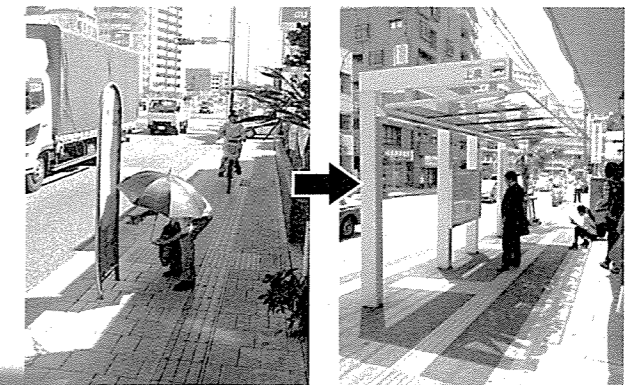
コラム:公共交通活性化の取組

①37年ぶりバスレーン延長



2月2日から延長。バスの定時速達性が高まりました。

③バス停が快適に



上屋と見やすい時刻表を設置しています。

②ノンステップバス導入



車いすでもらくらく乗車。

公共交通を
便利で
快適に!

④OKICA導入



4月27日から路線バスでも使えます。
精算がスムーズになりました!

～公共交通の輪が広がっています～



小学校で出前授業を実施しています。

わった～バス党 「法人党員」募集中!

2014年度は16社エントリー! 今年もわった～バス党「法人党員」が募集スタート!!

参加特典

- 新規バス通勤者運賃優遇
- ラジオ番組・新聞等での取組み紹介
- バスラッピングでの企業告知 など

2014年12月10日法人党員募集開始

まずはお気軽にお問い合わせください! **098-911-5329**

法人党員の詳細はわった～バス党ウェブサイト! わった～バス党 法人党員事務局

～公共交通について学んでみよう～ **出前授業募集中!** 問合せ先:交通政策課 098-866-2045